



【左】直径約6mmのアコヤ真珠とシルバーを使用したモデル。¥250,000【中】約6.5-7.5mmのアコヤ真珠とシルバーを使用したモデル。¥600,000【右】同じく¥700,000（すべて税別）



COLUMN

男に、真珠 文・中野香織

日本を代表するジュエラー、ミキモトとコム デ ギャルソンが協働し、2月14日に、「男性がつける」をテーマにした真珠のネックレスを発売した。

ミキモトパールの上流派の美しさはそのまま活かされ、後ろの留め金や細部にコム デ ギャルソンらしさが光る。テイストも客層もかぶらないと想定されていたブランド同士のコラボレーションだけに、ひときわワクワクする。

男に真珠のネックレスというコンセプトそのものに関しては、昨年「来る」という予感があった。

ブームの始まりは2019年5月のメットガラだった。英国ポップグループ「ワン・ダイレクション」のメンバー、ハリー・スタイルズが片耳に大きな真珠のイヤリングをつけて登場した。揺れる大粒イヤリングをつけた美青年の写真は、メディア、SNSを席巻した。

6月にフィレンツェでおこなわれたメンズファッションの本都市「ピッティ・イマージネ・ウオモ」では真珠の片耳イヤリングの男性たちがランウェイを歩き、秋冬には真珠のネックレスが目玉留まるようになった。スタイルズを筆頭にエイサップ・ロッキー、ニックー&ジョー・ジョナス、アッシャーらエンタメ界の男性たちが続々、真珠のネックレスをつけて登場した。ストリート系に真珠のネックレス、あるいはグラマラスなロックスタイルに真珠のネックレスという組み合わせは、新鮮でクールだった。白い真珠のレフ版効果で彼らの表情が一段階、明るく見えたことも魅力増進に貢献していた。

男に、真珠。

これまでは男性用の真珠といえば、カフリンクスかタイピン、せいぜいピンブローチに使われる程度だったが、

2019年にはイヤリング、ネックレスと一気にバリエーションが拡大した。このトレンドを受け、満を持して、まさかの驚きとともに登場したラスボスこそが、ミキモトコム デ ギャルソンのパールネックレスなのである。宝飾界、モード界それぞれにおいて世界で最も知名度の高い日本ブランドがタッグを組んだのだから、最強である。「男性がつける」をテーマにしているが、男性限定ではない。

実は男性の真珠のアクセサリはまったく新しい流行というわけでもない。そもそもインドのマハラジャには真珠の装飾が不可欠であった。16世紀、チューダー朝のイギリスでは国王ヘンリー8世が全身を真珠で飾り立てているし、宮廷人たちは片耳に真珠のイヤリングを飾っていた。冒険家サー・ウォルター・ローリーも片耳に大きな真珠をつけて肖像画を描かせている。この時代には養殖真珠は存在しないので、危険と隣り合わせで海から採られた貴重な天然真珠である。ルネサンス時代の男性にとって、真珠は富の象徴であるとともに、「すばらしき新世界 (Brave New World)」をめざす勇敢な人間であることの誇示でもあったのだ。この流行は17世紀まで続き、英国王チャールズ1世は常に片耳真珠をつけていた。断頭台で処刑される時までずっと。

21世紀、現在の真珠のトレンドの背後にあるのは、ジェンダーフルイド（ジェンダーは流動する）という考え方の普及であろう。男性としてふるまうか、女性としてふるまうか、そのどちらでもない性としてふるまうかは、時に応じて変わらうという考え方がモード界を超えて広がっている。

ごく最近まで「女性の必需品」とされていた真珠をあ

っさりともう男性たちを見ていると、ジェンダーを問う発想のものが古く見えてくる。「らしさ」や役割の固定観念から解放された21世紀のルネサンス・マンは、真珠の優しくも強い光と相性がいいのである。

もう一つの背景として、サステナビリティという価値も無視できない。真珠は、次世代へと受け継いでいけるサステナビリティを誇る。同時に、トレンドに大きく左右されないタイムレスな強さがある。さらに汎用性まである。実は今回のコラボレーションで私がもっとも心動かされたのは、ネクタイをつけたスーツという正装に真珠のネックレスを重ねた広告写真であった。シンプルな白い真珠は、ストリートでもカジュアルでも正装でも、意外と何にでも合わせられる汎用性があるのだ。そんなことは私たち女がとうに知っていたことでもあるが。

バロック真珠を使い前衛的なデザインを施すこともできたであろうコム デ ギャルソンが、宝飾品としての王道をいく白い真珠の美しさをそのまま保持することを最大限に考慮したのは、時代の要請でもあるサステナビリティやタイムレスな価値を大切にしたいためであろう。

というわけで、ミキモトコム デ ギャルソンによるジェンダーを問わない真珠のネックレスは、ジェンダーフルイド、「らしさ」からの解放、サステナビリティ、タイムレスという、2020年の世界が求めてやまない価値のラグジュアリーな象徴としても光り輝いている。

中野香織 服飾史家として執筆・講演のほか昭和女子大学客員教授、企業のアドバイザーを務める。著書に『「イノベーター」で読むアパレル全史』、『ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史』ほか多数。www.kaori-nakano.com (公式HP)